

第2編 基本構想

1 将来都市像

将来都市像を、以下のとおり定めます。

未来へつなぐ みんなでつくる しあわせのまち とよあけ

未来へ つなぐ	【今のまちをより良くする】【次の世代に受け継ぐ、つなげる】 【持続可能な未来を築く】 一人ひとりの取り組みによって「今」の豊明市をより良いまちへ発展させながら、自然や歴史などの環境だけでなく、人や地域の想いもそれぞれの世代が次世代に受け継ぎ、持続可能な「未来」を築きます。
みんな で つくる	【市民・団体・企業等と行政の連携】【多様な背景を持つ人たちを尊重】 【人と人がつながり支えあう】 「作る」「創る」「造る」など、人によってつくるものに違いはあれど、年齢や性別、障がいの有無、異なる文化及び国籍などを問わず多様な価値観を尊重し合いながら、人と人がつながり、支えあい、まちづくりに関わることで、活気あふれる地域づくりを目指します。
しあ わせ の まち	【安全安心】【挑戦、自己実現】【居場所】 物質的な豊かさだけでなく、精神的な満足感、安心感、人間関係の充実など、誰にでも居場所があり、地域全体が心地よく暮

2 将来人口

全国的に人口減少が進む中、国立社会保障・人口問題研究所によれば本市も 2040 年には 63,000 人程度まで減少すると推計されています。これに対し、市外流出人口の抑制と市内に住み続けることができる受け皿を確保することを目的とした土地区画整理事業を実施しており、道路、公園などの都市基盤と居住環境の整備を図るとともに宅地の利用増進を目指しています。さらに、本計画に基づき子育てしやすく、住みやすいまちづくりを積極的に推進します。そのため、2031年(令和13年)時点で 68,000 人以上を目標とします。

3 土地利用構想

本市は名古屋市に隣接し、伊勢湾岸自動車道、名鉄名古屋本線などの広域交通幹線の要衝となる優れた立地環境にあります。また、桶狭間古戦場などの歴史的な史跡や、勅使池や二村山など水と緑の良好な自然環境にも恵まれています。

人口規模が縮小する時代において、「持続可能な都市」であり続けるため、良好な立地環境を活かして計画的かつ有効な土地利用を図ります。将来の土地利用を「居住ゾーン」「田園居住ゾーン」「産業ゾーン」「農地・緑地ゾーン」、「防災・医療ゾーン」の5つに区分し、発展的かつ自然と共存し、防災機能が高く、安全で快適な都市をめざします。

3 住みやすさ

国籍や立場を超えて多様な主体があらゆる場面でお互いを尊重し、地域で積極的に活動できるような風土や環境をつくるとともに、防災・防犯意識を高めるための取り組みを進めます。

環境保全や気候変動対策など、地球規模の課題に取り組むとともに、ごみの適切処理や減量化を通じて生活環境の向上を図ります。また、誰もが気軽に外出し快適に移動できるように公共交通を充実させます。

公園緑地や道路など都市基盤を計画的に整備するとともに、人口密度に応じた住宅政策や空き家対策を進めます。また、河川やため池の管理を強化し、災害に強く安全なまちづくりを進めます。

めざすまちの姿 6	お互いを尊重し、それぞれの個性や強みを活かしてつながりあえる安全安心なまち（安全安心・地域づくり）
めざすまちの姿 7	気軽に外出でき、生活しやすいきれいなまち（住環境）
めざすまちの姿 8	いつまでも住み続けられる、安全で快適なまち（都市基盤）

4 賑わい

地域の歴史や文化財を保存・継承するとともに、地域資源

2. 市民や団体等との協働・共創

めざすまちの姿実現に向けて、行政だけではなく多様な主体者がそれぞれの分野で役割を担う必要があります。ともに手を取り、相互に補完し、協力しながらまちづくりを進めるものとします。

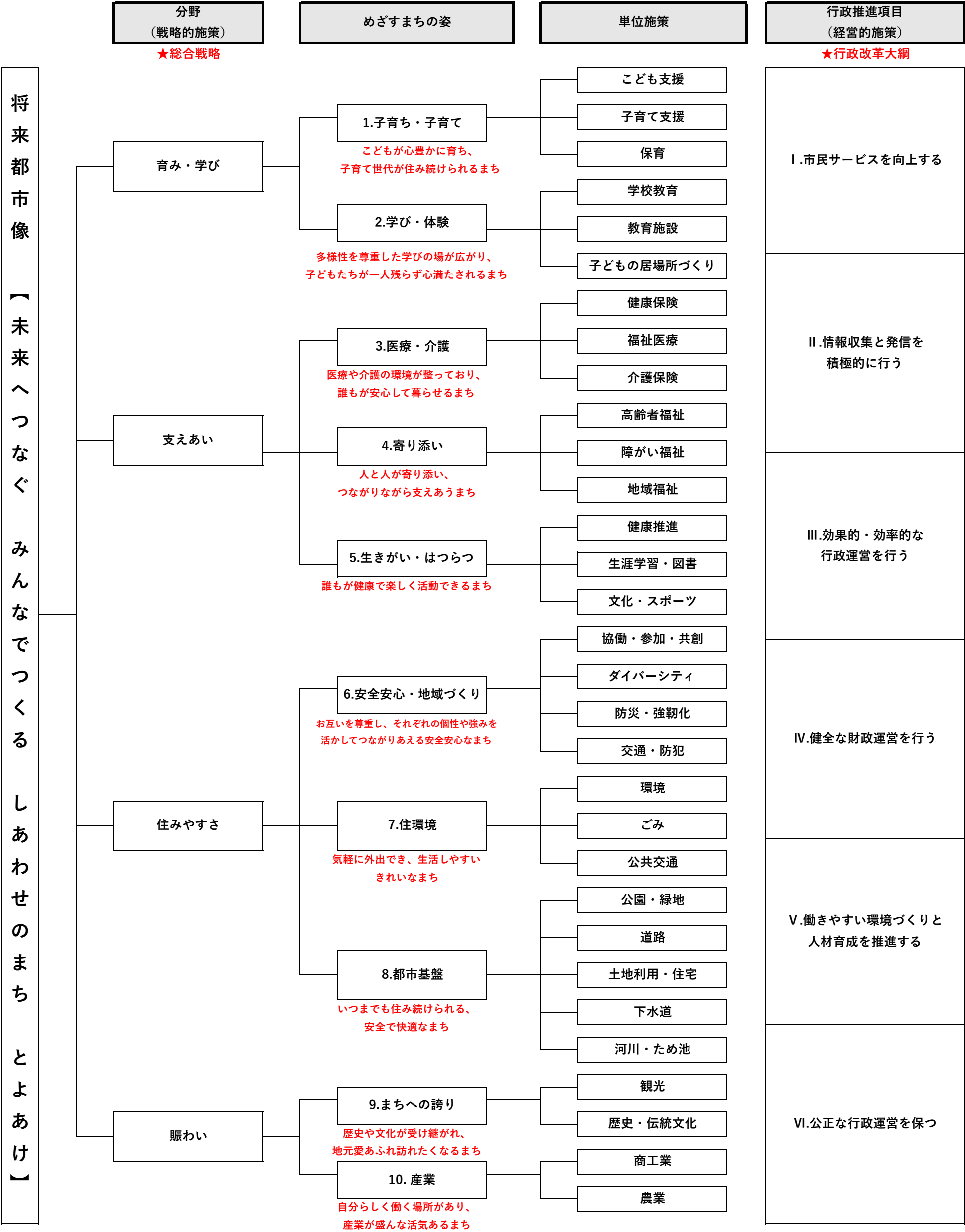
また、計画期間中の各施策の進捗状況や課題など、定期的に市民と行政の双方で確認し、評価・検証するなど、市民参画型の進行管理を行います。特に、未来を担う子どもたちの意見を積極的に取り入れ、事業の改善につなげます。

3. まちづくりを支える行財政運営

基本構想の推進にあたっては、以下の6つの視点(行政推進項目)から、将来都市像「未来へつなぐ みんなでつくる しあわせのまち とよあけ」の実現に向けて、全庁的に取り組みます。

行政推進項目1	市民サービスを向上する
行政推進項目2	情報収集と発信を積極的に行う
行政推進項目3	効果的・効率的な行政運営を行う
行政推進項目4	健全な財政運営を行う
行政推進項目5	働きやすい環境づくりと人材育成を推進する
行政推進項目6	公正な行政運営を保つ

第6次総合計画 施策体系



まちづくり指標及び成果指標について

1. 指標の設定について

第5次総合計画では、めざすまちの姿の達成状況を図る“ものさし”として「まちづくり指標」を設定していました。まちづくり指標を定期的に確認していくことにより、目標が達成に近づいているかどうかを客観的に確認することができます。

第6次総合計画においても、各階層における適切な指標を設定することで、より成果重視に基づく評価指標の分析及び単位施策ごとの実施手段を適宜改善しながら事業の発展につなげます。

2. 第6次総合計画における指標の設定方法

